

休日当番病・医院

6月25日(日)

- ◆内科 夜間・休日急病センター
旭町 32-0099
- ◆外科 につしん泌尿器科クリニック
日新町 71-1100
- ◆歯科 のぞみ歯科
のぞみ町 61-4055

診療時間：内科＝9時～翌朝7時、外科＝9時～17時、歯科＝9時～12時。本紙は毎週火曜日に編集のため、その後に休日当番医が変更になってもお知らせすることはできません。ご利用されるときには、あらかじめ電話でお確かめください。

法律相談



7月27日(木)
大和田貴史弁護士

(定員になり次第締め切ります)
日本共産党小牧地区委員会
小牧市見山町2-2-6 申込 56-5002

日本共産党
民主苦小牧

発行 日本共産党小牧地区委員会

小牧市見山町2丁目2番6号 電話 56-5002 fax 56-5086
日本共産党のホームページ <http://www.jcp.or.jp>
小牧市議会ホームページ <http://toma-jcp.sakura.ne.jp/>
eメールアドレス commun@rose.ocn.ne.jp

◆日本共産党は、大軍拡・大増税許さず、命と暮らしを守る政治実現に全力を尽くします

島山元衆院議員

苦小牧市で広がる共感 議席奪還へ

北海道の声を国政へ軍拡煽る議員いらない



「す」と指摘。政治家の仕事は外交努力で戦争をさせないことであり、維新の会のように軍拡をあおりたてる議員はいりませんと強く訴えました。遠くから手を振る人や車から声援を送る人が続きました。

日本共産党を語る集いは会場いっぱいに参加者が集まり、質問と国会の状況に対する怒りの声が相次ぎました。島山氏は、被害が急増の熊問題を共産党の真下紀子道議が取り上げたとの民の怒りの声が響くなか、日本共産党の島山和也元衆院議員は15日、苦小牧市入りし終日行動をしました。

統一地方選で共産党市議団が4人に加え、それぞれの活動地域の会館で集いを実施。夕方には2カ所の大型店前で、軍拡財源法案が参院で自公の数の力で強行するなか、小野寺幸恵、原啓司両市議とともに街頭で宣伝しました。

島山氏は、「政府はミサイルを配備する計画だが、相手の国に撃ち込むものなのだから、戦争準備そのもの。年金へらし、復興費用充て、暮らしを犠牲にしてまでミサイルを買うのが今問われている。では、「私が明倫中学校で教

若者たちを潰す政治変えよう



員としてスタートしたのは28年前。2014年に衆院に初当選して1期務め(17年まで)以後北海道の議席は失ったままです。悪政変える議席回復にがんばりたい」と自己紹介し、決意を表明しました。

島山さんは岸田政権の軍拡政治を批判し、平和・暮らし・人権を守る日本共産党の躍進を訴えました。

▼物価が上りつて節約はもう限界。年金減らされて通帳見ると辛い。国がこんなことさせていいの。消費税下げ

るべきと共産党は10年間言い続けています。電気代は北海道が一番高い。知事は何をしているのか。北電と値上げ撤回で話しました。値上げの理由は火力発電所で使う輸入化石燃料の高騰と泊原発の維持費と言いますが、これらによる発電を止め、自然エネルギーに切り換えるべきです。自給自足している市町村が出てきています。

▼国会では、軍拡財源法案を強行し戦争準備です。入国管理法の改悪があり、政府は外国人に冷たい。健康保険証の廃止など、マイナンバーカードに何でも紐づけしようとして、大問題になっていきます。一からやり直すべきです。安心して暮らせることを政府は大事にしなければなりません。人権無視の国会変えるためにも共産党を伸ばしてほしい。

▼お金の心配して進学する社会は変えなければならぬ。借金背負って社会に出て働く



マイナカード強制になる
健康保険証の
廃止 見直せ
日本共産党

のほのかと思う。政府は若者たちを潰すつもりか。学費は半額、入学金ゼロ、奨学金は給付型にし、若者たちを潰す政治を変えよう。

島山さんは、安心して暮らせる日本に変えるためにも、若い人たちの仲間を増やし、共産党の輪を広げてほしいと力を込め呼びかけました。

参加者からの質問が相次ぎ、自衛隊員による発砲事件について、「18歳に銃を持たせ訓練していることにビックリしました。いじめやハラスメントがあると聞いており、不満がたまつて起こしたのなら恐ろしいことです」と回答。「岸田首相は息子を辞めさせたがそれで済むのか」「政府はどうして消費税減税できないのか」「クマ対策に猟銃持っている人が少なすぎる」「自宅の除雪ができない高齢者が増えている。助成できないものか」などの質問に島山さんは丁寧に答えました。司会森本健太市議が務めました。

ヒグマと共存 対策を急げ

真下道議

相次ぐ被害 具体策あげ提案



急増しています。道は、22年4月から5年間の第2期ヒグマ管理計画を策定し、春季管理捕獲を開始しましたが、熊とのあつれきは軽減されていません。

朱鞠内湖で5月9日、ヒグマが目撃されたにもかかわらず、釣り客の案内を中止していたNPO法人が道や幌加内町に情報を提供せず、14日に客を送り被害が起きました。

道議会の環境生活委員会では、日本共産党の真下紀子議員は、ヒグマ対策について質問し、具体的な対策を示しながら実効ある措置を求めました。

道内各地の市街地にヒグマが頻繁に出没し、朱鞠内湖畔(幌加内町)では5月14日に釣り人が死亡する事故が起きています。

2021年には1056頭が駆除されましたが、ヒグマの生息推計数は20年度は過去最多の1万1700頭、農業被害は2億6000万円に達しています。



真下委員は、実効ある措置を取るために、すべての振興局で地域実施計画の早期策定、市町村の対策方針・指針の策定が必須だと強調しました。加納孝之環境生活部長は

「最新のヒグマの生息状況や生態なども踏まえ、昨年3月に改定した管理計画に沿い、着実に取り組みを進めていく」と答えました。

真下委員は、精度の高い生態調査の実施や予期せぬ遭遇への防止策が急がれると提案。市街地への侵入防止対策の電気柵や自動撮影カメラなどへの助成、専門人材の育成などを求めました。

道は、すべての振興局での地域実施計画の早期策定や机

命と生活脅かす電気料値上げ

岩淵議員

軽減策の延長と拡充求める



参院経済産業委員会では15日、日本共産党の岩淵議員は、電力大手7社の規制料金値上げが「命と暮らしを脅かしている」として、9月まで実施予定の電気料金軽減策について、延長と拡充を求めました。

岩淵委員は、北海道で寄せられた「年金が電気料金で吹き飛ばす」「難病患者にとって命にかかわる問題」などの切実な声や、小売業では光熱費が増加したとの調査も示し、

上研修に加え、現地研修を行うと表明。地域の人材育成や関係機関相互の連携を強化し、生息実態のさらなる把握や、地域の実状を考慮した「ゾーニング管理」、ヒグマに関する正しい知識の普及など、ヒグマと共存できるように取り組むと答えました。

生業と暮らし守るために

インボイス 実施中止を 日本共産党



民青同盟の新たな前進

国会かけある記 紙ともこです

岸田政権は、21日の会期末に合わせ、中央公聴会も十分な審議もなしに軍拡財源法を強行採決しました。野党が内閣不信任決議案を出せば解散するところだが、トラブルを繰り返すマイナンバーカード等への批判が高まると、一転して「解散やめた」と平然という様子は、解散をもてあそぶ総理の卑劣さを浮き彫りにしました。

緊張が高まるなか、日本共産党中央委員会を代表して民青同盟の第2回中央委員会、あいさつをしました。今年は、民青同盟の前身である共産青年同盟創立

から100周年の節目に当たります。私が民青同盟で活動したのは1970年代半ばから80年代後半までで、現中央委員のみなさんは、まだ生まれていませんでした。それでも100年間の歴史と伝統、未来への希望は、世代を超えて共有できることを実感しました。

民青同盟は、コロナ禍、高い学費と低賃金で困窮し、自己責任論と孤独に苦しむ戦争する国づくりに邁進する岸田政権に危険性を感じる青年と、社会や資本主義のあり方を学ぶことを大切にしてきました。「巨大な政治的模索」を深めている青年の願いに応え、組織と運動を発展させるために知恵と努力を重ね、新たな前進を開始していると聞いて、新しい息吹を感じました。

かつて口ずさんだ「未来は青年のもの」「青年動くと、そこに勝利の光あり」という言葉がよみがえります。若いみなさんとともに希望ある未来へ！ 政治転換を！

紙智子(かみ・ともこ) 日本共産党参議院議員

第2回中央委員会



民青中央委で「希望ある未来へ」(16日)

「加齢による難聴者への補聴器購入に助成を求める署名」にご協力をお願いします。